# 岩木山の火山活動解説資料（平成 28 年 10 月）

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

| |
|---|
| 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。<br>噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。 |

## ○ 活動概況

**・噴気など表面現象の状況（図１～５）**

11 日に青森県の協力により実施した上空からの観測では、変質地帯 1) がみられる湯ノ沢上流及び赤沢上流、並びに 1978 年に噴気活動がみられた赤倉沢に噴気及び地熱域は認められませんでした。

百沢東に設置している遠望カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。

**・地震や微動の発生状況（図６）**

火山性地震及び火山性微動は観測されませんでした。

**・地殻変動の状況（図７、図９）**

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

1）噴気や地熱により、土壌に硫黄の昇華物等が見られる場所。

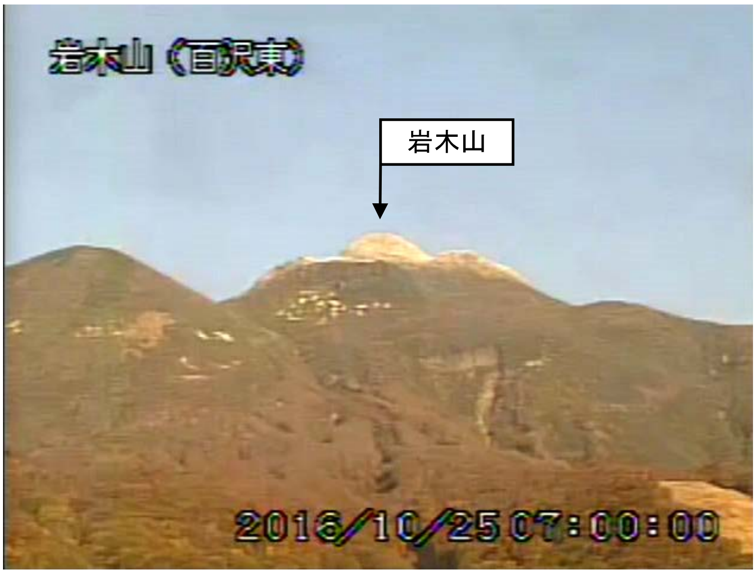


**図１　岩木山　山頂部の状況（10 月 25 日）**
**百沢東（山頂の南東約４km）に設置している遠望カメラの映像です。**

---

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（http://www.jma-net.go.jp/sendai/）や、気象庁ホームページ（http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成28年11月分）は平成28年12月８日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、弘前大学のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50ｍメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号　平26情使、第578号）。

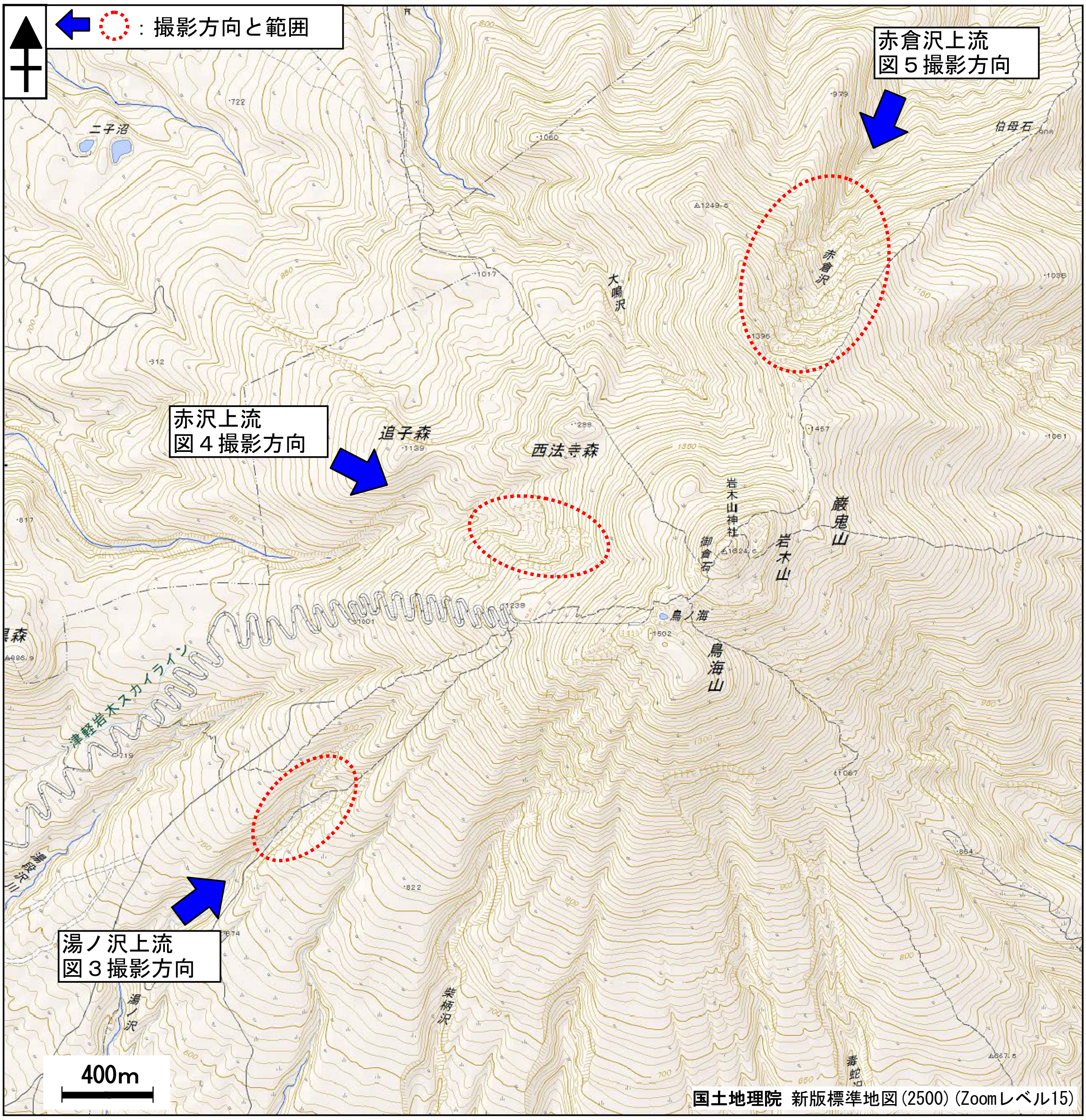


**図２　岩木山　上空から撮影した湯ノ沢上流、赤沢上流、赤倉沢上流の写真及び地表面温度分布[2]撮影位置と範囲**

２）赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

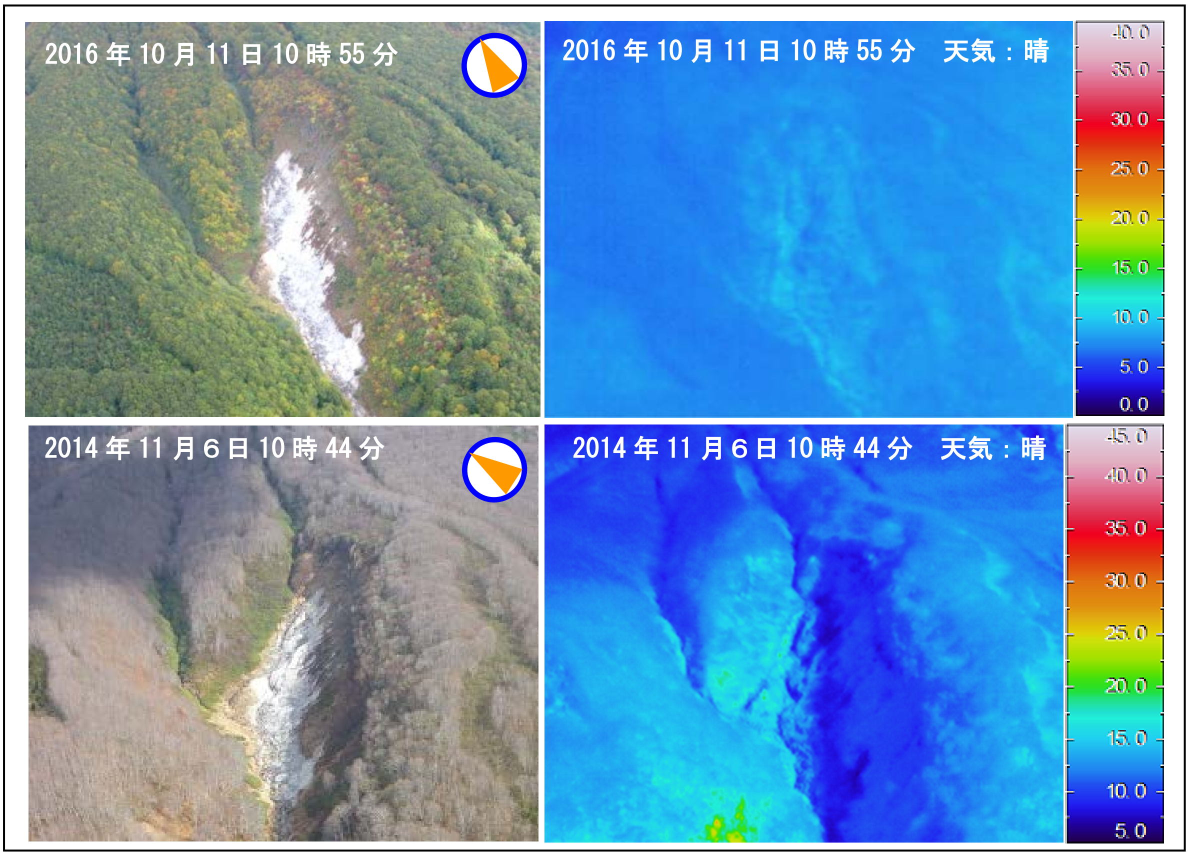


**図３　岩木山　南西方向の上空から撮影した湯ノ沢上流の状況と地表面温度分布**
・前々回（2014 年 11 月６日）と同様、明瞭な地熱域は認められませんでした。
※前回（2015 年 11 月 12 日）は天候不良のため、前々回と比較しています。前々回、周囲より温度の高い部分は、日射の影響によるものと推定されます。

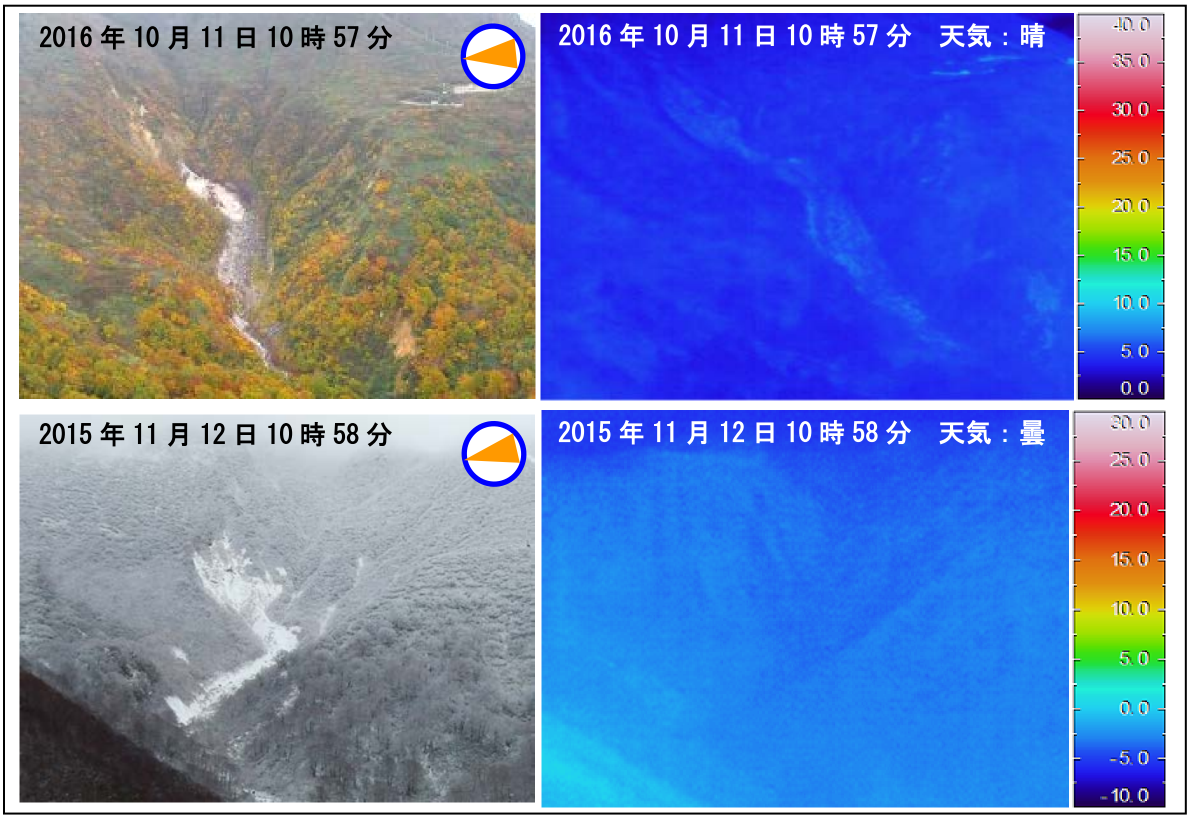


**図４　岩木山　西北西方向の上空から撮影した赤沢上流の状況と地表面温度分布**
・前回（2015 年 11 月 12 日）と同様、明瞭な地熱域は認められませんでした。

**図５　岩木山　北北東方向の上空から撮影した赤倉沢上流の状況と地表面温度分布**

・前回（2015 年 11 月 12 日）と同様、明瞭な地熱域は認められませんでした。

（※今回、周囲より温度の高い部分は、日射の影響によるものと推定されます。）

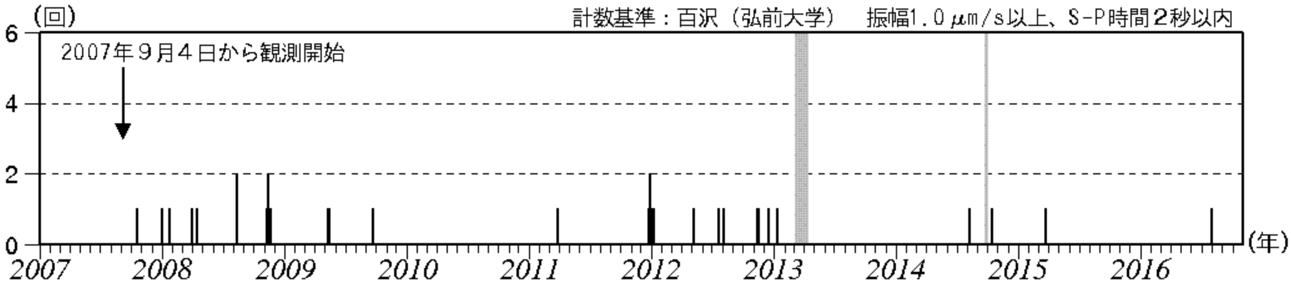


**図６　岩木山　日別地震回数（2007 年９月～2016 年 10 月）**

・灰色部分は欠測を表しています。

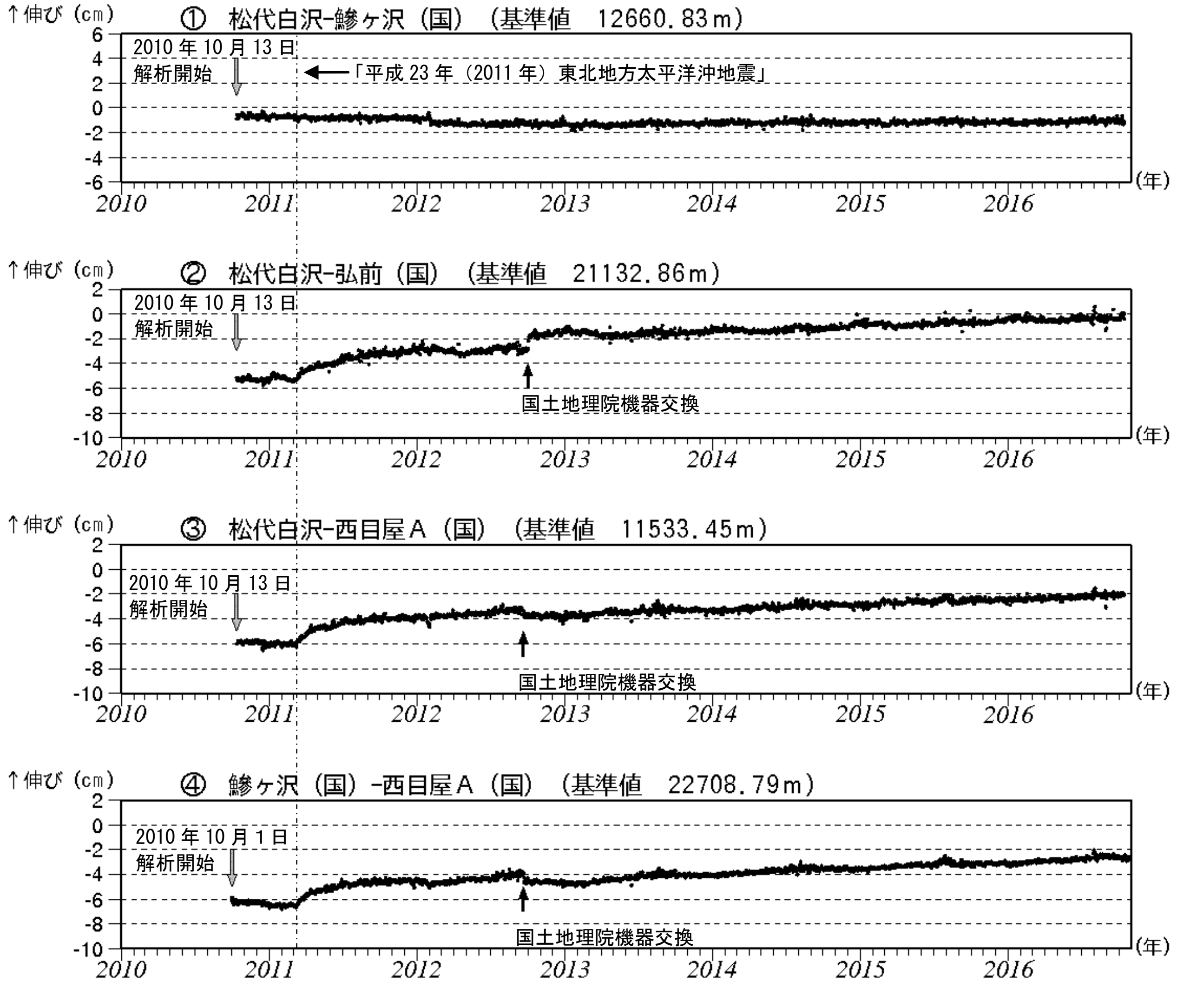


**図７　岩木山　GNSS[3] 基線長変化図（2010 年 10 月～2016 年 10 月）**

3）GNSS とはGlobal Navigation Satellite Systems の略称で、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示します。

・「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
・①～④は図９の GNSS 基線①～④に対応しています。
・各基線の基準値は補正等により変更する場合があります。
・（国）は国土地理院の観測点を示します。

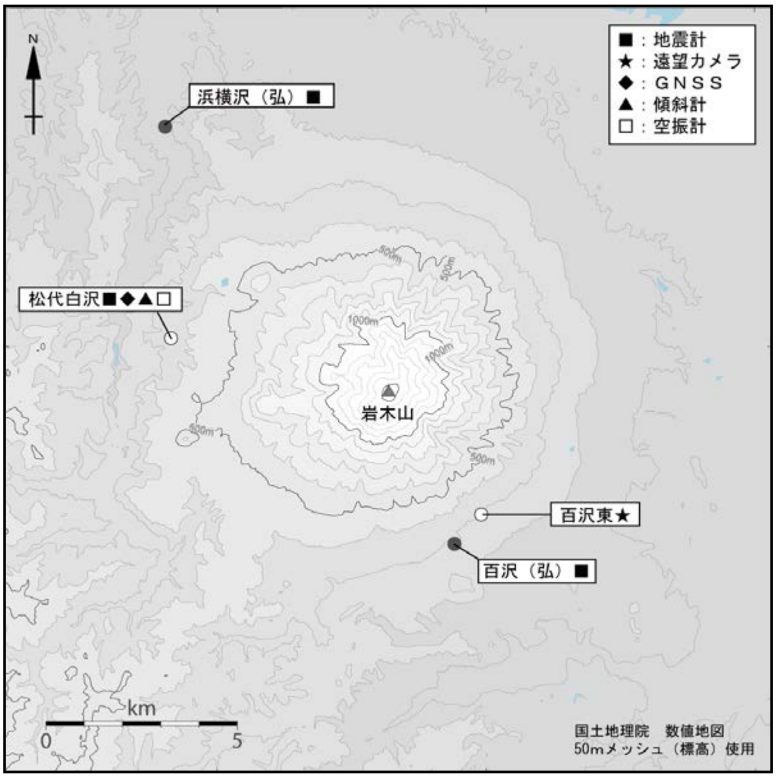


**図８　岩木山　観測点配置図**
小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（弘）：弘前大学

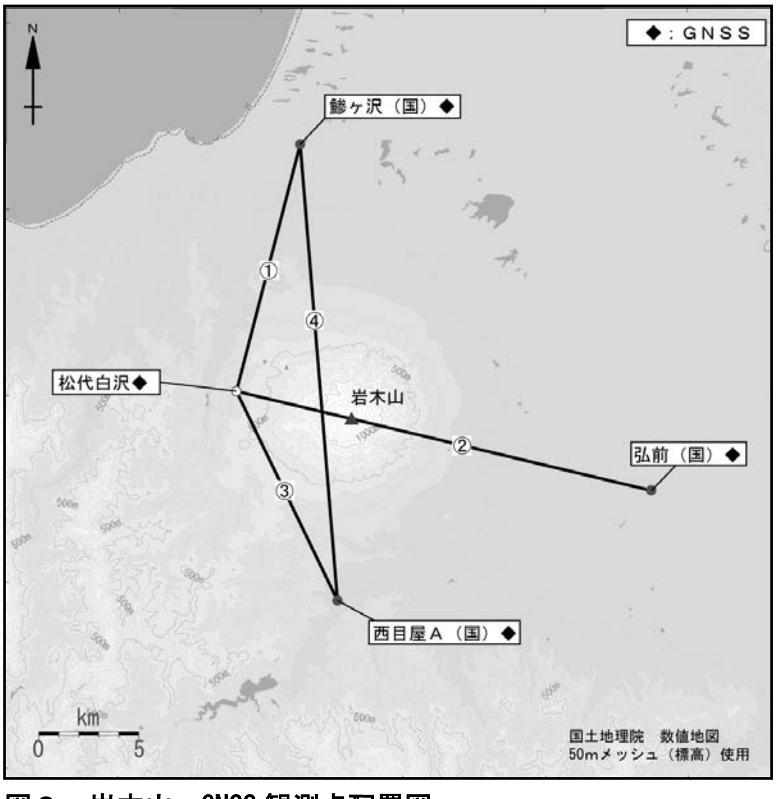


**図９　岩木山　GNSS 観測点配置図**
小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院